

平成25年度 海域の物質循環健全化計画三津湾地域検討委員会（第2回）

第1回検討委員会指摘事項に対する対応内容

委員名	指摘事項	対応内容
（1）全体工程と平成25年度検討スケジュールについて		
山本委員長	モデル上のフラックスについて、付着藻類の分泌・枯死とベントスの捕食がリンクしていないのか？	（統括検討委員会事務局）付着藻類の分泌・枯死とベントスの捕食をリンクさせた。
山本委員長	モデル上で、AVS濃度が3mg/gでベントスの死亡率が2%に達した以降は、AVS濃度が上昇しても死亡率が高くない設定になっている。	（統括検討委員会事務局）AVS濃度3mg/g以上になる場合もベントスの死亡率が上昇するように設定した。
山本委員長	AVS濃度は、そこに含まれている硫化水素濃度によって変化するため、硫化水素濃度を把握して、検討を進めてほしい。	（地域WG事務局）実証試験の調査項目として採用し、検知管による測定を行った。→資料1
高橋委員	人工中層海底の対策をモデル上でも効果を検討できないか？	（地域WG事務局）統括検討委員会事務局と協議し、モデル上での効果検証を行った。→資料3
山本委員長	カキ筏のボックスを点源として、モデル上で施肥を行い、その効果を検討できないか？	（地域WG事務局）ボックスの中央に施肥を行い、広島湾の基礎生産力と同程度にした場合の栄養塩負荷必要量を計算した。→資料3
山本委員長	カキ養殖量を調整する際、カキ1個あたりの成長を計算できないか？	（統括検討委員会事務局）各ボックスの概算値として1個あたりの成長量を計算した。→資料3
（2）平成25年度実証試験について		
谷本委員	間隙水の採水は、鉛直的に何層で採取するのか？	（地域WG事務局）表層10cm層の1層で実施した。→資料1
高橋委員	底質改善剤の混合によって底質の物質濃度が希釈される効果と底質改善剤自体の効果を切り分けて解析する必要がある。	（地域WG事務局）希釈の割合を含めて考察を行った。→資料1